

祇園精舎 表現分析

【ねらい】『平家物語』『祇園精舎』の文章は、読んでいて自然とリズム感があるような文体である。その文体を分析することで、この文章の「読みやすさ」を理解し、暗唱できるようにしよう。

【目標】みんなが、「祇園精舎」の表現の特徴を自分の言葉で説明できる。

【課題】例に従って、各表現の「対（ペア）」を見つけ、どういうつながりの対なのか、詳しく記しなさい。

【例】① 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。

② おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。

③ 遠く異朝をとぶらへば、秦の趙高、漢の王莽、梁の朱异、唐の禄山、

④ これらは皆旧主先皇の政にも従はず、

⑤ 楽しみを極め、

⑥ 天下の乱れんことを悟らずして、

⑦ 間近くは、六波羅の入道前太政大臣平朝臣清盛公と申しし人の有様、伝へ承るこそ、心もことばも及ばれね。